

F1 SERIES

FYNE ADVICE

取扱説明書

ESSENTIAL INFORMATION GUIDE



目次

1. はじめに
2. テクノロジー
3. セッティングポジション
4. スパイクの取り付け
5. 6. アンプとケーブルについて
7. スピーカーケーブルの接続
8. アースの接続
9. コントロールノブの設定
10. お手入れについて
11. 保証
12. 仕様

1. はじめに

FYNE AUDIO F1 SERIES スピーカーをご購入いただきまことにありがとうございます。

本機は経験豊富な FYNE AUDIO が誇る最高水準のエンジニアリングチームによって設計され、スコットランドの自社工場、厳格な品質管理の基、熟練した職人の手によって一品一品丁寧に製造されています。

安全のため、また、本機のパフォーマンスを最大限発揮させるため、

本取扱説明書をよくお読みになり正しくご使用の上、末永くご愛用くださいますようお願い申し上げます。

●安全にご使用いただくために



開梱の際、本体を取り出す時には、怪我や損傷を避けるため、必ず二人以上の大人で注意深く行なってください。脱落防止のため、袋を掴んで行なわないでください。

付属のスパイクは先端がたいへん鋭利です。ケガをしないよう取り扱いには十分ご注意ください。

移動など将来のご使用に備えて、梱包材は大切に保管してください。

本体を覆っている布袋は長時間ご使用にならない時に保護カバーとしてご使用ください。

●アクセサリボックスの内容

- フロアカップリングスパイク M16 (x8)
- スパイクロッキングホイール (x8)
- スパイク受け (x8)
- スパイク調整ツール (x1)
- バイワイヤー・リンクケーブル (x4)

2. テクノロジー

ファインオーディオ・ハイエンド F1 Series の、そのユニークな形状はバツフル回折と内部定在波を回避するための徹底解析から生まれた必然的帰結です。キャビネット素材には厳選された高硬度のウォールナットを、そして、フロントとトップにはさらに硬度の高いバウォールナットを配し、重厚なバーチプライ積層プレス構造とし、内部の要所に堅牢なブレースを組み込み、さらに底部には重量級のアルミブラットフォームを装備。その高剛性構造は、共振によるカラーリング効果を抑えながら、精緻な低域再現とディテール表現力に溢れる豊かな響きを生みだします。

そして、ドライバー構成と回路、システム構造、フィニッシュ、そのすべてに亘って、IsoFlare, BassTrax を始めとするファインオーディオ独自の技術の最高レベルが投入されています。

■ IsoFlare™ ポイントソース・ドライバー設計

IsoFlare(アイソフレアー)とは、LF と HF の各ドライバーの音軸の中心を完全に一致させたポイントソースドライバーシステムです。こうしたシステムは一般には同軸構造と称されますが、通常はしかし、音軸の一致と引き換えに鋭い指向性が余儀なくされます。アイソフレアーと呼ぶこの独自の方式は、HF ドライバーの開口形状と LF コーンドライバーの湾曲形状を統合解析し、その放射角を綿密に計算し一体化することで、高域エネルギーの等方的な拡散放射を可能とします。それは、あたかも宇宙の一点から発したフレアー光が全方向に放射拡散されるかのように、球面波を生成し、かつクロスオーバーポイントでのエネルギーの完全な統合を実現。極めて自然なステレオイメージングをもたらす優れたテクノロジーです。

● HF コンプレッションドライバー

銅のショートリングを装備したカプトンボビンに巻かれたハイパワー・エッジワウンドアルミ・ボイスコイルと強力なネオジウムマグネットによる、ウーファーから独立した磁気回路を持つ HF コンプレッションドライバー。

3 インチという大口径チタンダイヤフラムと、最適化されたウェーブガイドによって、特にヴォーカル帯域に重要な 750Hz という中低域から 26kHz 以上に亘る超高域までを、低歪みで幅広くスムーズに、そしてダイナミックにカバーします。

● LF コーンドライバー

マルチファイバーペーパーコーンが自然な響きのミッドレンジ再生とクリーントランジェントを生み出し、HF セクションとの高い親和性をもたらします。エッジ構造にはツインロールファブリックサラウンドと称する二重構成を採用しエッジの不要共振を徹底排除。磁気回路はアルミフォーマーに巻かれた低損失角型銅ボイスコイルと大型フェライトマグネットで構築し強靱なアルミダイキャストフレームにマウント。さらに後部を内部ブレースに結合。低歪みの重厚な低域再現を果たします。

■ BassTrax™ ポート・ディフューザーシステム

F1 SERIES には、ファインオーディオの重要な基幹技術(かつ、世界初の特許出願技術)、低域の放射特性を圧倒的に改善する BassTrax™ Tractrix (ベーストラックス・トラクトリックス)ポート・ディフューザーシステムが採用されています。

低域ポートは一般的なバスレフとは異なり、エンクロージャーの底部に下向きに配され、さらにその開口部には Tractrix (トラクトリックス)と称する垂円錐ジオメトリーによるプロファイルによって設計されたディフューザーが設けられています。ポートから発する垂直プレーン波エネルギーは、そこで 90°向きを変え、360 度に亘るスムーズな水平波面に変換します。一般的なバスレフと異なり、壁面からの部分的な強い低域反射が抑えられることで、スピーカーの設置条件は著しく緩和され、クリアで力強い低域再生を実現するのです。

また、内部空間はポートの入り口と出口で二つに仕切られています。このツインキャピティ・レフレックスローディング構造は一種のマフラーの働きをし、内部定在波を大幅に低減するとともに、ポートチューニング周波数をブロード化し、コーンエクスカーションを低減。パワーハンドリング能力をも強化させることに貢献しています。

■ クロスオーバー

コンピューター解析による最適化設計をベースに、クリティカルなオーディショニングによる追い込み微調整で徹底追求した回路構成によるクロスオーバーは、低損失 LF 積層コアインダクター、及び CLARITYCAP 製高品位 HF ポリプロピレンフィルムコンデンサーを含む高品質精密部品を多用。アッセンブリーは最終的にクライオジェニック処理がなされ、回路部品とハンダ接合部のストレスを緩和し、信号伝送純度をマキシマイズしています。ターミナルには高品質の金メッキ WBT Nextgen™ バイワイヤー端子と Neotech™ PC-OCC 内部配線を採用。さらに RF 電波などからの干渉が及ぼす微小信号のマスクング現象を防止するためのアース端子を設け、より純度の高い信号伝送確保に努めています。

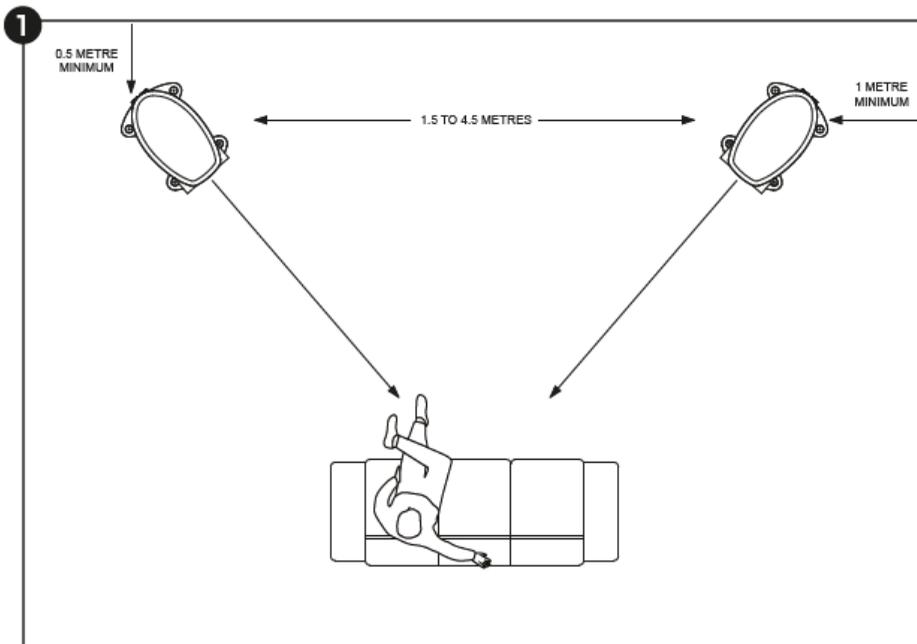
フロントバッフルには二つのコントローラーを装備。HF エネルギー調整として 750Hz-26kHz を ± 3 dB 可変、そして、プレゼンス調整として 2.5kHz-5kHz ± 3 dB の可変により、音響の微調整を可能としています。

3. セッティングポジション (推奨)

スピーカーを動かす際は、怪我や損傷を避けるため、必ず二人以上の大人で注意深く行なってください。

下図(Fig1)は標準的な参考推奨ポジションですが、部屋の状態に合わせて最適なステレオイメージが得られるよう、適宜微調整してください。

推奨位置: 開き 1.5m - 4.5m、後壁から最短 50cm、側壁から最短 1m



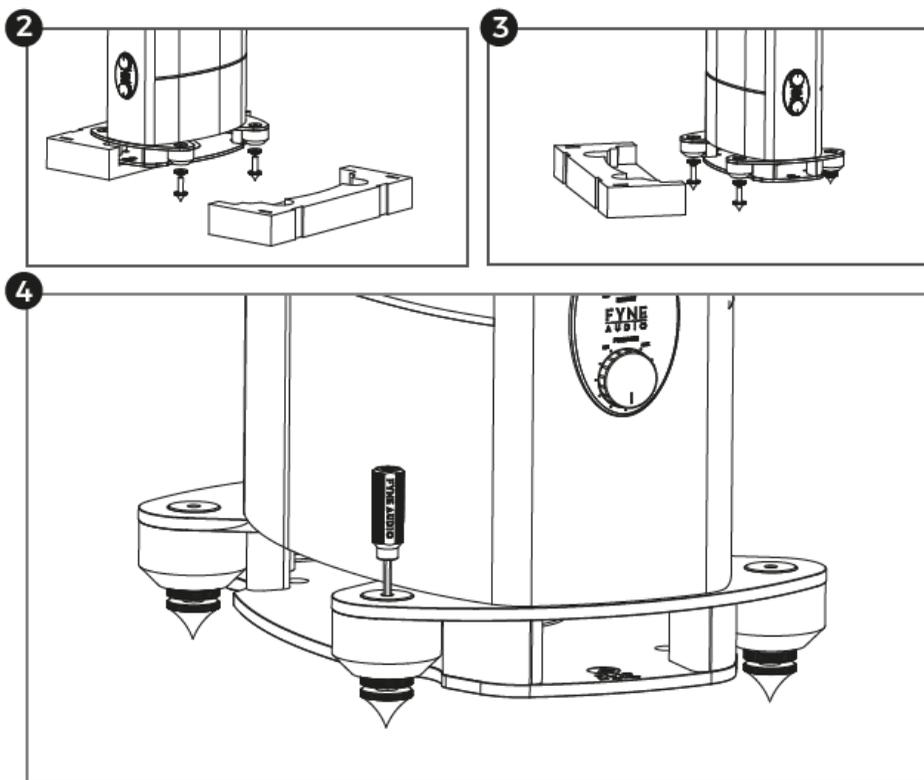
4. スパイクの取り付け

※大人二人で作業してください。

開梱の後、まず、(スピーカーを支えながら)下部の緩衝材の片側を抜き、フロアカップリングスパイクとロックングホイール2組を下からねじ込みます。(Fig2)

もう片側も同様にセットします。(Fig3)

スパイク調整ツールで各スパイクの高さを微調整しスピーカーの垂直/水平レベルを合わせます。(Fig4)



※スパイクで床を傷付けることを防止するには、スパイク受けをご使用ください。

5. 6. アンプとスピーカーケーブルについて

アンプは、仕様に表示された入力推奨パワーを上回る高出力のものでも過大入力とならないレベルでご使用になれます。トランジスターアンプ、真空管アンプを問わず、高解像度、低歪率でダイナミックレンジにゆとりあるドライブ能力を有していることが肝要です。

スピーカーケーブルには高品質のものを使用することが重要です。

技術的な観点からは、損失を最小限に抑え、アンプの減衰を最大限にするには電気抵抗が低くなければなりません。導体タイプを含むケーブルの物理的構成、純度、絶縁特性などが音質に大きな影響を与えます。

しかし、最適なケーブルは主観的にもご使用のシステムにも依存しますのでディーラーの助言を乞うこともご考慮ください。

ケーブル端末は、4mm のバナナまたはスペードの高品質コネクタが使用できます。

本機のターミナルは WBT Nextgen™ ですので、コネクタも同一ブランドのものが推奨です。

7. スピーカーケーブルの接続

スピーカーケーブルを接続する際は、アンプの電源を切ってから行ってください。

ケーブルの端末はバナナプラグ(4mm)、スペードラグのいずれも使用できます。

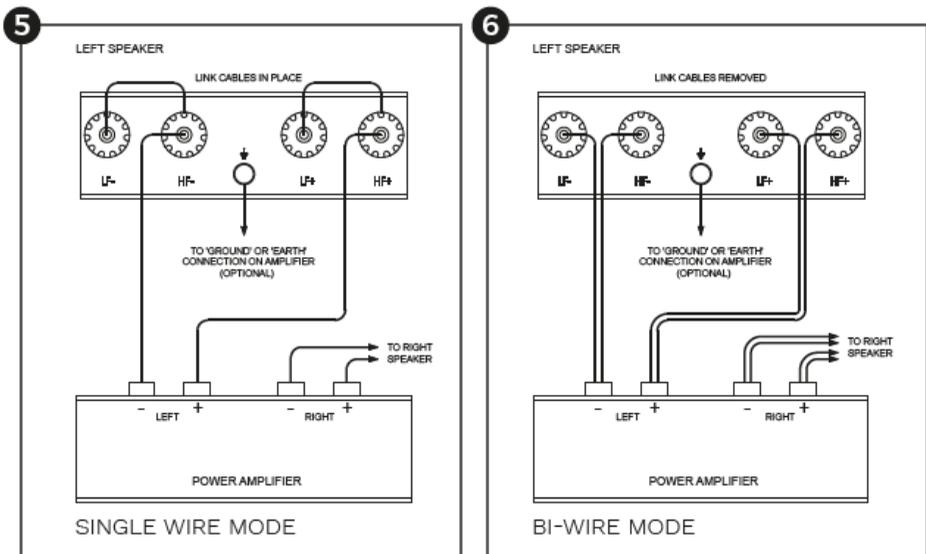
スピーカー端子はバイワイヤー接続対応です。シングルワイヤー接続の場合は、LF-と HF-の間、LF+と HF+の間に付属のリンクケーブルをセットしてください。

[シングルワイヤー接続の場合]

付属のリンクケーブルで「LF-と HF-の間」、「LF+と HF+の間」を結線し、スピーカーケーブルの - を LF か HF のいずれかの - 端子に、ケーブルの + を LF か HF のいずれかの + 端子につなぎます。 (FIG5)

[バイワイヤー接続の場合]

リンクケーブルを外し、バイワイヤー用スピーカーケーブル(2ペアのケーブル)で、LF, HF それぞれの+/- に正しく繋ぎます。 (FIG6)

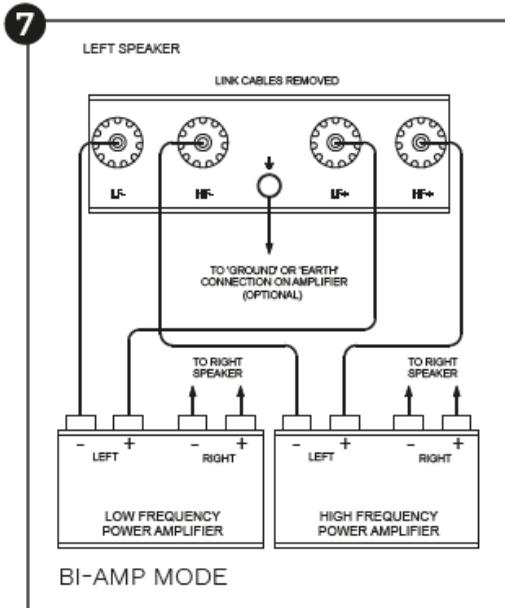


[バイアンプ接続の場合]

※2台のステレオパワーアンプ(または、4台のモノアンプ)で、LFとHFを別個に鳴らします。(FIG7)



リンクケーブルは必ず外してください。外さずに使うとアンプが壊れます。



8. アースの接続

本機には、後面の端子板にアース端子が設けてあります。

この端子は内部でドライブユニットのシャーシーに結線されています。

このアース接続と大地アースをケーブル接続することで、無線周波数帯の浮遊高周波がアンプにフィードバックされることを防ぎ再生音のディテールと解像度が阻害されることを低減することが期待できます。

接続する場合は、アース接続に適した十分低い抵抗値のケーブルをご使用ください。

9. コントロールノブの設定

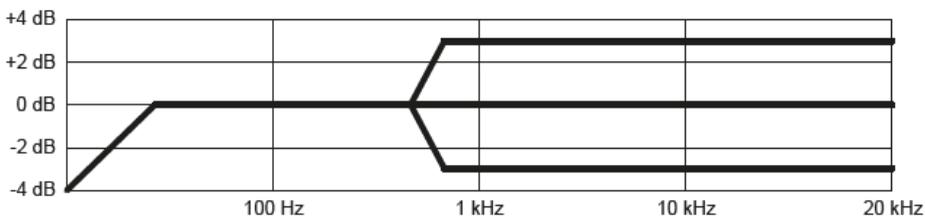
本機には二つのコントロールノブが設けられています。

上側のノブ“Energy”は、クロスオーバー周波数より上の高域全体のレベルを $\pm 3\text{dB}$ 増減できます。(FIG8)

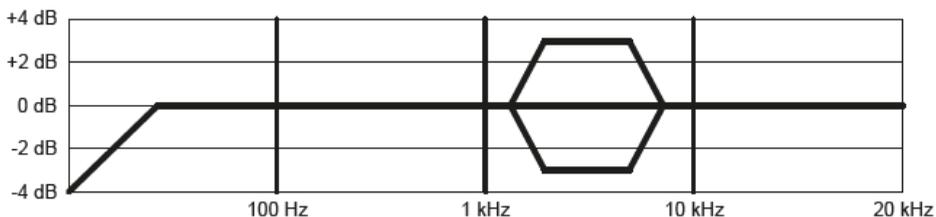
下側のノブ“Presence”は、2.5kHzから5kHzの帯域のみを $\pm 3\text{dB}$ 増減でき、ヴォーカルのクリアネスやイメーシングの深さを微調整できます。(FIG9)

二つのノブの適切な設定によって、音のリアリティーやサウンドステージの深みなどを微調整することができます。システムや部屋の状態によって適宜ご利用ください。

8 HF ENERGY ADJUSTMENT



9 PRESENSE ADJUSTMENT



10. お手入れについて

本機キャビネットのお手入れはピアノのケアなどに使用するマイクロファイバークロスなどで優しく拭いてください。キャビネットは天然木素材ですので、長時間の熱や湿度、直射日光の当たる場所は避けてください。

長時間使用しない場合は、梱包時の布袋で覆って保護してください。

溶剤や研磨剤は絶対に使用しないでください。これは損傷の原因となり、保証対象外となります。

11. 保証

本機の保証はアクシス株式会社が行ないます。

無償保証期間は5年間です。保証規定は、添付の保証書をご参照ください。

12. 仕様

MODEL	F1-10	F1-12
形式	2 way ダウンファイアーリング・ポート w/ BassTrax™Tractrix ディフューザー	
推奨アンプ出力(Watt RMS)	20- 280	20- 350
許容入力	500W(Peak), 140W(RMS)	600W(Peak), 175W(RMS)
感度(2.83 Volt @ 1m)	94dB	96dB
公称インピーダンス	8 Ohm	
周波数特性 (-6dB typical in room)	28Hz- 26kHz	26Hz- 26kHz
ユニット構成	1 x 250mm IsoFlare™ ポイントソース・ドライバー (マルチファイバー・LFコーン w/75mm チタ ンドーム・コンプレッション・トワイター、 ネオジウムマグネット磁気回路)	1 x 300mm IsoFlare™ ポイントソース・ドライバー (マルチファイバー・LFコーン w/75mm チタ ンドーム・コンプレッション・トワイター、 ネオジウムマグネット磁気回路)
クロスオーバー周波数	750Hz	
クロスオーバースロープ	2nd order low pass, 2st order high pass, クライオ処理	
微調整	HF エネルギー(750Hz-26kHz)±3dB プレゼンス(2.5kHz-5kHz)±3dB	
外形寸法(HxWxD)	1191 x 405 x 581 mm	1350 x 450 x 680 mm
質量(1本当り)	57.7kg	72.0kg
外装フィニッシュ	ピアノグロス・ウォールナット w/Burr ウォールナット・トップ&バツフル / ピアノグロス・ブラック / ピアノグロス・ホワイト	